

## 〔重修本草綱目啓蒙三十二〕竹鷄

一名四大八府志

和產ナシ、稀ニ舶來アリ、形矮雞ノ雌ニ似テ尾下ニ垂ル、目ハ淺赤黃色、嘴淺黑色、頰咽黃赤色、胸下左右同色ニシテ黒文アリ、腹漸ク白クシテ黒斑アリ、頂ヨリ尾ニ至マデ茶色ニシテ綠色ヲ帶ブ、羽ゴトニ半片ハ黒文ト白圈トアリ、半片ハ小黑漣文アリ、目ノ通一條及胸ニ小黒文アリ、翼一二羽ハ灰色ニシテ波文アリ、カザキリハ淡黑色、尾ハ淡綠色端赤色ヲ帶テ小黒波文アリ、雌モ形相類シテ色淡ク、背ニ赤小點アリ、脚淡黑色ニシテ距アリ、古ヨリ竹雞ヲウバシギト訓ズルハ非ナリ、ウバシギハ一名ヤマシギ、シバシギ、アマシギニシテ、鶴ノ品類ナリ、○略

增、竹鷄ヲヤマシギニ充ツル説アリ、一名ウバシギ、又シバシギ、アマシギトモ云フ、此ハシギノ品類ニシテ、竹林ニ栖ムモノナリ、常ノシギヨリ大ニシテ、鳩ホドアリ、形雞ノ鷲ニ似テ喙長ク、尾至テ短クシテ頭小ナリ、全身黃褐色ニシテ黒キ斑文アリ、翅ノ下兩脇ニ白黒ノ斑文アリ、食用ニ上品ナリ、豫州伯州ナドニ居ルハ、形大ニシテ雌雞ホドモアリ、

## 〔飼鳥必用中〕竹鷄

此鳥形鶴より大きくして、脊薄黑色に赤き府合あり、胸は淺黃にて腹赤し、近年東都表にて子を取、貳番巢迄は產生立候ゆへ、産巢親鳥さへあらば、澤山子は取れべし、飼方鷗鵠に同様、此鳥何ぞ案事不及、唐方にては竹鷄のこへ聞ゆる所江は、家村に虫つかぬとて、家々に飼置よし、本朝にては其事を不知、此鳥のこへにむし恐る、とや、試度は思ひしが、未其事を不計、

〔新撰字鏡鳥〕鶴 同常倫反、  
鶴 鶴字豆良、 鶴 鶴字豆良、 鶴 鶴字豆良、

鶴 鶴字豆良、 鶴 鶴字豆良、 鶴 鶴字豆良、

〔本草和名十五禽〕鶴肉 鶴鶴貌似雲雀而其音勑々者、一名鼈鳥、鼈化爲鶴鳥、故和名字都良、

〔倭名類聚抄十八〕鶴

淮南子云、蝦蟆化爲鶴、市繪反、和良、

鶴  
稱

〔箋注倭名類聚抄七〕所引齊俗訓文、原書無化字、李時珍曰、鶴大如雞雛、頭細而無尾、毛有斑點、甚